持続可能なまちづくりへ挑戦は続く



彌冨博幸議員

持続可能なまちづくりについて

彌冨　市長の「5つのアクション」1年間の取り組みは。

答弁　第1子からの保育料無償化、小学校入学時の学用品支援、体育館への空調設置のため設計着手、自治会活動に対する支援事業、企業誘致2社などです。

彌冨　「5つのアクション」の優先順位は。

答弁　地域の実情と実施に向けた課題などを踏まえ、優先度が高い政策は何かを見極め、事業実施に向けて検討を進めていきます。

彌冨　旧清掃センターの解体は。

答弁　旧清掃センターの解体撤去は、地域の安心安全確保、跡地利活用を含めて重要な課題と認識しています。解体には多大な費用が見込まれることから、スケジュールや活用可能な補助金の検討、工法などについて情報収集に努めているところで、市の財政状況を見極めて令和9年度以降の解体に向けて検討を進めているところです。



彌冨　新市庁舎建設の今後の展望は。

答弁　昭和48年建設から50年以上経過しており、老朽化や防災拠点として耐震性や機能において不十分な点もあり、行政サービスを安定的に継続していくためには、新庁舎の整備は避けては通れない重要な課題です。建設にあたっては建設時期も含め、慎重かつ着実に進めていく必要があると考えています。

時代の急速な変化の中での職員の人材づくり



田渕　厚議員

市職員の人材育成について

田渕　市の求める人材は。

答弁　市の求める職員の理想像は1つ目に、自ら多久市の課題を見いだし解決する政策を企画立案する能力。2つ目が地域住民の意見を傾聴し、合意形成ができるコミュニケーション能力。3つ目は、社会変化に柔軟に対応し、常に自らを振り返り、主体的に成長し続ける職員です。

田渕　庁内のデジタル人材や専門知識を持つ職員をどのように育成しているのか。

答弁　職員一人一人が日々の業務で自己研鑽をし、市町村アカデミーや佐賀県市町村振興協会などが主催する研修を受講しスキルアップに努めています。

田渕　人材の適材適所とモチベーション向上の取り組みは。

答弁　人事評価の結果や日々の業務を通じて把握した適性、能力、経験などを総合的に勘案し、人事配置を行っています。モチベーション向上は日々の頑張りや挑戦する姿勢を適切に評価することが重要と考えています。



田渕　人事評価の処遇への反映は。

答弁　能力評価と業績評価を適切に行い、その結果を期末・勤勉手当や昇給・昇任に反映させています。また、上司と部下による面談を実施し、人材育成や次への意欲につながるように努めています。

旧市立病院跡施設利活用はどうなるの？



古賀公彦議員

旧市立病院跡地・跡施設について

古賀　跡地・跡施設の利活用の進捗状況は。

答弁　地歴調査の結果、病院運営で特定有害物質を使用していたことから、土壌汚染の可能性が示されました。今後、既存施設を解体するとなれば、県への届出や土壌調査などが必要となります。こうした課題があることから、当面の間は既存施設の利活用を優先する方向で検討し、小売業や飲食また介護施設など民間活力などの誘致に向けた取り組みに努めているところです。

古賀　地歴調査後の土壌サンプリング調査は行わないのか。

答弁　当面の間は既存施設の活用を優先する方向なので、現時点でサンプリング調査は行いません。

古賀　跡地活用として「道の駅構想」について提案したが、官民連携で複合施設の検討はできないか。

答弁　道の駅構想をはじめ地域活性化のご提案については、まちづくりの重要な視点とし、また観光案内所や複合施設といった公的機能を持つ施設整備については、地域への誘客や住民サービスの向上や防災拠点としての機能など多面的な効果が期待できる選択肢の一つであると認識しています。一方で巨額な初期投資や維持管理費が財政負担となる懸念があることから、地域の将来を見据えた貴重な提案として今後の参考にさせていただきます。



人口規模から住民満足度への転換期では



市丸勝義議員

縮小社会における多久市の今後について

市丸　多久市の人口推移は。

答弁　本市の人口が25，000人程度であった平成2年国勢調査結果から、令和7年度は速報値で、16，825人となっています。

市丸　定住奨励金を支給しても、人口減少が拡大している要因は。

答弁　社会動態の転出者数増に加えて、自然動態も要因の一つではないかと考えています。しかしながら、奨励金制度のアンケート結果では、人口減少に対する一定の抑止効果はあると考えています。

市丸　人口増加施策だけでなく、住民満足度向上への認識は。

答弁　住民満足度を分析することが必要であると考え、ウェルビーイング指標のアンケート調査を実施しました。

市丸　アンケート結果による多久市の課題は。

答弁　地域への愛着や助け合いの意識など、共助の姿勢が県内市の平均値より高い結果となり、暮らしの満足度や買物は低い結果となっています。

市丸　「人口」から「住民満足度」という観点での今後の方向性は。

答弁　住民満足度の向上と定住促進の充実は、どちらか一方の選択というより、バランスを取りながらやっていくことが必要だというふうに考えています。それぞれの視点を持ちながら、時代の潮流や社会情勢、地域の実情などを見極め、施策の充実に努めていきます。

